

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (中間報告)		学校関係者評価 (11月18日実施)	総合評価 (3月21日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<p>①共生社会の実現に貢献できる人材の育成に向けて、インクルーシブな学習環境を構築し、協働的な学びを通じた相互理解の深化につながる教育課程の編成や学校行事の精選・充実に取り組む。</p> <p>②1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びの充実に、総合的な探究の時間の充実に、主体的に学ぶ意欲を高め、学ぶ喜びのある授業を実践する。</p>	<p>①指導と評価の一体化に向けて、言語活動を取り入れた授業実践に取り組む。また、総合的な探究の時間を抜本的に見直し、探究的な視点を養う学習プログラムを構築する。</p> <p>②主体的に学ぶ意欲を喚起し、学習に対する苦手を軽減することで、学ぶ喜びを感じられるよう、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①指導と評価の一体化に向けた研究を進めるとともに、総合的な探究の時間を含めた3年間を通じた体系的なカリキュラムによる学習プログラムを構築する。</p> <p>②ICT利活用授業における1人1台端末の効果的な活用について研究を進めるとともに、ICT機器を活用しやすい環境整備や取扱い方法のマニュアル化を進める。</p> <p>③スタディサプリの到達度テストにおける連動課題配信機能を活用し、個別最適な学びを実践する。</p>	<p>①総合的な探究の時間について、探究的な視点を養う体系的な学習プログラムを構築することができた。</p> <p>②1人1台端末を活用した授業の頻度が上昇したか。また、その授業方法を職員間で共有することができたか。</p> <p>③スタディサプリのログイン率・動画視聴時間・初回正答率が、昨年度と比較して上昇したか。</p>	<p>①指導と評価の一体化について、担当者間で話し合うことができた。</p> <p>①学年ごとにスタディサプリアナビといった探究学習のためのツールを導入し学年で統一した取組を進めている。</p> <p>②1人1台端末の校内貸し出し方法を見直し、大きなトラブルなく活用するとともに、より効果的な活用の推進に向けて、Jamboardの代替となるアプリケーションについて担当者間で話し合うことができた。</p> <p>②到達度テストを再実施した結果、全学年・全科目で平均点が上昇し、基礎学力の向上が見られた。</p> <p>③スタディサプリのログイン率・動画視聴時間・確認テスト実施数について、いずれも昨年度より高水準で推移している。特にログイン率については昨年度前期の52%から今年度前期は89%に上昇しており、組織的に取り組んでいると判断できる結果となった。</p>	<p>①後期に行われる授業参観週間に向けて、指導と評価の一体化に向けた授業研究を各教科で行う。</p> <p>①年度末の発表に向けた探究成果のまとめ作業の中で、より深く探究する視点を持たせることで、年度をまたいだ体系的な学習プログラムの構築につなげていく。</p> <p>②今後、不登校生徒等の学習機会の確保に向けた取組等で機器の使用頻度の増加が見込まれることから、速やかに対応できる体制を整えたい。</p> <p>③スタディサプリの各数値については過去2年のどちらにおいても年度の後半に低下する傾向が見られたので、高い数値を維持できるよう、継続した指導を行う。</p>	<p>①朝読書の時間については、総合的な探究の時間としての活用も含め、生徒が自分で選択して活用するとよいと考えている。</p> <p>②1人1台端末の活用について、教員の中で、卒業するまでにどのようなITスキルを生徒に身に付けさせたいかという共通認識があるとより活用しやすくなるのではないかと。②足柄高校の生徒と話す機会があり、スタディサプリの助けになっているという声を聞いた。今後の活用に期待する。</p>	<p>①授業参観週間では、昨年度より多くの職員が参加し、指導と評価の方法について学ぶことができた。特に他教科の参観が増加し、ICT利活用授業や教科横断型授業に向けた意識の高まりが見られた。</p> <p>②スタディサプリの活用状況を示す各数値について、年度後半においても高い数値を維持することができた。</p> <p>③ICT機器貸出し方法や設定のマニュアル化を実施し、端末を全職員が活用しやすい状態で維持できている。</p> <p>④生徒の端末は自宅での充電を原則としているが、充電忘れにより授業に使用できない場合があった。</p>	<p>①評価のタイミングや方法について担当者間で差が出ないよう、継続して協議を行う。</p> <p>②スタディサプリの活用については教師主導で進められる場面が散見されたため、個別最適化された主体的な活用が拡充されるよう研究を進めていく。</p> <p>③機器の管理については、現在の状態を維持できるように、生徒職員への周知をはかる。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①生徒一人ひとりの状況に応じた組織的な指導・支援体制の充実に、安心・安全でインクルーシブな学校づくりを推進する。</p> <p>②学校行事や部活動等の活性化を通して、インクルーシブな人間関係の構築に向けた生徒の主体的な取組を促す。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況に応じた、きめ細やかな指導・支援体制を充実させ、すべての生徒が安心して学べる環境の整備を推進する。</p> <p>②生徒が部活動等を通して達成感や充実感を得ることができ、心身ともに成長できるよう、生徒会や部活動の活性化・加入率の向上をはかる。</p>	<p>①「かながわ子どもサポートドック」の取組を推進し、生徒の状況や課題、ニーズに応じた支援を行う。</p> <p>①講話等を通して、人権や生命尊重の意識を醸成する。特に交通安全教育において、スクエアストリート方式の交通安全講座を計画するとともに、自転車ヘルメットの着用率向上に努める。</p> <p>②生徒会や部活動等の安心安全な活動を担保し、学習との両立ができるよう支援していく。</p> <p>③新たな体育祭の成功に向け、生徒の意見や発想を尊重し、主体的な取組を支援する。</p>	<p>①学年会議やケース会議、SC・SSWとの情報共有や学習環境の整備を通じて、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を実施できたか。</p> <p>①各種講座のアンケート結果等で、生徒の意識の向上が見られたか。</p> <p>②部活動の加入率が向上したか、また安心安全な生徒会活動、部活動等が行えたか。</p> <p>③生徒の行事に対する充実感達成感が得られたか。</p>	<p>①「かながわ子どもサポートドック」では、SC・SSWと協力しながら個々の生徒の実態に合わせた支援を実施することができた。</p> <p>①適切な時期に各種講座を実施し、事後アンケートでは生徒の意識の向上を確認できている。</p> <p>②部活動加入率は53.5%で前年を下回り、入部率の下降傾向が続いている。</p> <p>②6月に数十年ぶりとなる体育祭を実施した。手探り状態の運営ではあったが、生徒の念願でもあり、活気あふれる行事となった。足高祭は9月に実施し、2日間の来校者数は2,200人を超えた。コロナ前に行っていた後夜祭の復活など規模も拡大し、成功裏に終えた。両行事とも生徒は一定の充実感・達成感を得た。</p>	<p>①教育相談体制の見直しを図るとともに、SC・SSWとの連携についても、教育相談COを中心に、学年の教育相談担当者とともに適切に実施をしていく。</p> <p>①各種講座のアンケート結果について学校全体で情報を共有するとともに、講座の様子等をWebページに公表するなどして、本校の取組の周知を図ることが必要である。</p> <p>②学校の活性化に部活動は欠かせない要素であり、入部率のみならず、定着状況を注視するとともに、活動状況の校外への発信に努めていく。同時に、小規模でも充実感や達成感が得られるような活動を通して、良い成果につながるよう支援を継続していく。</p> <p>③体育祭は定着に向けて種目や日程等の再検討を行う。足高祭は生徒の主体的な発想や活動が見られ、今後もその能力をさらに発揮できるよう支援していく。</p>	<p>①自転車の乗り方についても罰則強化となった。イヤホンしながら自転車に乗っている生徒を見かけたことがあるが、学校から積極的に働きかけを行うべきである。</p> <p>①授業を見た際、教員が生徒の名前をしっかりと覚えているのが印象的だった。信頼関係を築く第一歩であり、質問しやすい環境づくりになっていると思う。</p> <p>②中学校と高校が合同で部活動をやるなど、地域が連携した取組を考えてはどうか。</p>	<p>①自転車マナーに関してご意見をいただく機会が大幅に減少した。ヘルメットの着用率は微増しているが、今後も粘り強く指導を続けていく。</p> <p>①「サポートドック」では、アンケートをきっかけにニーズのある生徒をSC・SSWに繋げることができた。</p> <p>②部活動の活性化に向けて、近隣中学校の現状や教職員の働き方改革などをふまえた検討が必要である。</p> <p>③足高祭に体育祭が加わり、学校にとって活気ある一年となったが、体育祭は再開したばかりで種目や運営方法等検討すべき点があり、足高祭でも会場設営や食販団体の決済方法などに改善が必要である。</p>	<p>①定期的な集会等だけでなく、HRでも交通ルールやマナーに触れる機会を増やし、意識を高める。シルバー人材の活用は次年度も継続したい。</p> <p>①教育相談については、業務が担任に集中しないよう、教育相談COや教育相談担当を中心とした体制づくりに努め、ニーズのある生徒に支援が行き届くようにしていく。</p> <p>②中学生との交流や地域行事への参加など、部活動・委員会、ボランティアの取組を検討したい。</p> <p>③行事後のアンケートをふまえ、諸行事が生徒の主体的な活動となるよう、生徒とのコミュニケーションを図りながら発展させたい。足高祭ではキャッシュレス決済導入を目指す。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (11月18日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒自身が考え、進路希望の実現に向けた行動をするなど、生徒の主体性を育むキャリア教育を組織的・計画的に実践する。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校として、生徒一人ひとりの社会接続を実現するために、ていねいな進路支援を行う。</p>	<p>①一人ひとりの進路希望の実現に向け、生徒及び保護者との綿密な情報共有を行う。探究活動を通じて、現状を分析し課題を明らかにする力を育む。</p> <p>②特別募集で入学した生徒の社会接続に組織的に取り組む。</p>	<p>①生徒・保護者との情報共有や進路データの有効活用、多様な入試制度に関する的確な情報提供により生徒の進路実現を支援する。</p> <p>①模試の振り返り等により自分の立ち位置を知ること向上心を高め、主体的な進路探究に向かわせる。</p> <p>②3年間の「進路実践」を中心に、生徒の自己理解を深めさせ、個々の希望に応じて幅広い実習・体験先の開拓を行う。</p>	<p>①生徒の進路探究に向けて、模試の結果等も活用して、1年生には意識付け、2年生には希望の絞り込み、3年生には進路実現の支援ができた。</p> <p>②授業展開の工夫や保護者への説明会等を通して、特別募集生徒の個々の希望を踏まえた社会接続が実現できたか。</p>	<p>①各学年、生徒の進路探究の状況に応じたガイダンス等を実施した。また各学年でオープンキャンパス等への参加を進めるとともに、外部模試の結果等も活用して学習意欲の喚起に努めた。</p> <p>②進路Gと各担当者が連携して、企業と綿密に連絡を取りつつ前期実習等を計画し、合わせてインクルーシブ支援員のサポートも受けながら支援を行っている。</p>	<p>①総合型や学校推薦型を希望する生徒が多く、一般受験も視野に入れたガイダンス等を一層充実させ、生徒の意識を高める必要がある。</p> <p>②蓄積してきた「進路実践」の取組を継承しながら、特別募集生徒の人数増や進路の多様化に対応した校内体制の見直しが必要と思われる。</p>	<p>①廊下に進路関係の手作りの資料が掲示されており、生徒に早いうちから意識させるきっかけになると感じた。こういったものを作成することも生徒にとって有意義なものであると思う。</p> <p>②多様な生徒がいる中で、それぞれの生徒が自らやりたいことを探せるような支援をしてほしい。</p>	<p>①わかりやすい進路資料を作成し、生徒進路意識の醸成・向上につとめた。</p> <p>①探究活動を通じて、現状を分析し課題を明らかにする力を育むキャリア教育を実践した。今後も南足柄市や地域企業との連携を深めたい。</p> <p>②「進路実践」を中心に、企業と連携して前期実習等を計画し、インクルーシブ支援員のサポートも受けながら生徒の自己理解を深めさせる支援を行った。</p>	<p>①総合型や学校推薦型を希望する生徒の増加に対応したガイダンス等を一層充実させ、生徒の進路意識を高める必要がある。</p> <p>②蓄積してきた「進路実践」の取組を継承しながら、特別募集生徒のみならず、多様な進路希望に対応した校内体制の見直しを行う。</p>
4	地域等との協働	<p>①インクルーシブ教育実践推進校としての本校の取組を地域に情報発信するとともに、生徒の地域理解・研究と地域貢献を通じ、連携と協働を推進する。</p> <p>②地域防災の推進や情報交換等を通じて、近隣地域との連携を推進する。</p>	<p>①Webページや他のSNSツールも活用し、本校の教育活動や地域貢献の取組を発信する。学校説明会等の内容を充実させる。</p> <p>②紙上防災訓練（緊急時避難、DIG）や、火災・地震想定での避難訓練、避難所開設訓練を実施し、地域への協力体制を整える。</p>	<p>①Webページ等の更新頻度を上げ、本校の魅力を分かりやすく発信する。学校説明会やオープンスクールでは生徒主体の広報活動を行う。</p> <p>①部活動顧問向けのCMS講習を実施し、入学希望の中学生等にタイムリーな情報発信ができる体制を作る。</p> <p>②校内の防災関係のマニュアルを整備し、地域防災に貢献できるよう近隣自治会や南足柄市との情報交換を密にしていく。</p>	<p>①Webページや他のSNSツールの更新頻度を上げたり、学校説明会等で生徒主体の広報を行ったりすることができたか。入学希望の中学生等が増加したか。</p> <p>②近隣地域との情報交換および連携を密にし、研修等を通して防災避難体制の整備を進められたか。</p>	<p>①オープンスクールでは、生徒が行う学校紹介や学校見学ツアーが好評であった。同窓会の協力を得て学校紹介動画を作成し、生き生きとした高校生活や足高の魅力をPRすることができた。</p> <p>①部活動の活動状況や学校行事等、Webページは常に新しい情報が得られるよう更新している。</p> <p>②PTA広報紙を近隣自治会にも回覧してもらったことで、本校並びに本校生徒の取組み等を地域に理解してもらおう一助となったと考えている。</p> <p>②9月に防災紙上訓練を実施し、火山災害について生徒が考える機会をつくった。</p>	<p>①Xは手軽に情報発信ができるSNSツールであるが、現状では利用者が限られているので、多くの職員が情報発信できるよう運用方法を改善する必要がある。</p> <p>①PRのための、キャッチフレーズやシンボル等の検討をしていきたい。</p> <p>②今年度は地域を巻き込んだ避難所開設訓練でなく、生徒が帰宅困難になった場合を想定した内容で修正したため、地域防災という点では手薄になってしまっていることから、今後の実施に際して工夫が必要である。</p>	<p>②広報紙を回覧してもらえたのは良かった。学校の様子などを積極的に地域に発信してほしい。</p> <p>②日常的にコミュニケーションが取れているわけではないが、美化デーなどのイベントで顔を合わせると生徒の様子がよく分かるので、こうした機会を増やしていきたい。</p>	<p>①Webページの更新頻度を高くしたり、Xの投稿方法を周知したりして、最新情報を発信するよう心掛けるとともに、「ダブルティーチャー」やスクールカラーを用いてPRを行った。</p> <p>①オープンスクール・説明会などは好評であったが、中学生の人数減少もあり、志願者数は伸び悩んだ。</p> <p>②避難所開設訓練では地域の方にも参加いただき交流を深められた。また、PTA広報紙を自治会で回覧していただき、本校の取組みについて知ってもらう機会をつくることできた。</p> <p>②地域美化清掃では住民の方々とともに活動し、交流が図れる良い機会となった。</p>	<p>①今後も継続して新鮮な情報をWebやSNSで発信できる方法を考える。学校案内など紙媒体のツールも中学生のニーズに合った内容にしていく。中学校の進路学習会向けの企画をパッケージ化し接触機会を増やす。</p> <p>①次年度は部活動見学週間を実施する予定であるが、活発な活動の様子を見せるには加入率の増加や活動内容の充実が必須である。</p> <p>②PTA広報紙の配付範囲拡大により、どの程度本校の取組みを知ってもらえたか検証する方法を考える。また、地域防災等において、期待される役割について検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校全体で教育環境に対する課題を共有し、校内施設と教育活動のバリアフリー化を進めるとともに、安心・安全な学校づくりを組織的・計画的に推進する。</p> <p>②不祥事防止に努め、実効性の高い組織的な取組を行う。</p>	<p>①職場環境の整備や業務の精選を行い、ゆとりをもって生徒に対応できる時間を確保する。</p> <p>①生徒の生活環境を整え、安全でストレスの少ない学校生活を送れるよう配慮する。</p> <p>②不祥事防止研修を継続的に実施し、全校体制での防止策強化に取り組む。</p>	<p>①業務内容を見直し、個人に頼らない仕組みづくりや業務の整理と手順の改善を図る。</p> <p>①生徒の生活用品の管理・補充の体制を整える。</p> <p>②毎月定期的に不祥事防止研修を開き、職員全体に注意喚起するとともに、個々に自己点検を行い、不祥事防止を自分事としてとらえる機会とする。</p>	<p>①企画会議、グループ・学年の会議等を通じて業務内容や業務遂行手順の見直しを行ったか。</p> <p>①事務室と連携を取り、生活用品の補充や補修を適切に行ったか。</p> <p>②場面に応じた注意点や改善点の共有など、組織的な不祥事防止を実践できたか。</p>	<p>①HR教室のすべての生徒机を、生徒の体格に合わせて新JIS規格のものに更新することができた。</p> <p>②毎月の職員会議に合わせて、月ごとのテーマに沿った内容で不祥事防止研修を実施し、不祥事防止を自分事としてとらえる機会とした。</p>	<p>①特別教室等の分は県の予算がついていないので、今後も旧JIS規格の机を使用することから、現時点で保有する新品と、更新時に確保した程度の良いものを大切に使う必要がある。</p> <p>②些細なことでも気づきや違和感を放置せず、指摘したり話題にしたりできる風通しの良い職場づくりを進めるとともに、定期的な研修の実施により、不祥事防止の徹底を図る。</p>	<p>①制服の見直しについては、先生方の意見だけでなく、生徒の意見等も取り入れて進めてほしい。</p>	<p>①HR教室の生徒用机を規格の大きいものに入れ替え、生徒の利便性が向上した。</p> <p>①制服の見直しにあたり、ネクタイ・リボン・エンブレムのデザインに生徒の意見を反映させることができた。</p> <p>②定期的な研修により、不祥事防止に対する意識を継続することができた。今後は定期的な研修のみならず、日常的に意識を高める取組が必要である。</p>	<p>①特別教室にある旧JIS規格の机について、計画的に順次入れ替えていく方向で検討していく。</p> <p>②面談や研修の機会を通じて不祥事防止の意識を全職員が共有するとともに、職員間で気になる点を話し合ったり、管理職に相談したりすることがしやすく、風通しの良い職場環境づくりを重ねていきたい。</p>